# 第17回国際ボランティア ワークキャンプ in ASO

## 報告書

(シ)　(エ)　(ア)

～ Share 知る＋得る＝アクション ～

2022年8月12日(金)～14日(日)
国立阿蘇青少年交流の家

National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」

# Contents


02 目的・概要

03 未来職道協力団体／スケジュール

04 開会式／基調講演
第１分科会「多文化共生」

05 第２分科会「国際協力」
第３分科会「地球温暖化と海」

06 第４分科会「多様性」
第５分科会「食品ロス」

07 第６分科会「子どもの権利」
全体交流会

08 未来職道／全体報告会

09 クロージング講演会、閉会式

09 お礼のメッセージ

10 アンケート報告

## 目的

### 高校生や大学生たちの若い人材の「生きる力」を育む！

21世紀の教育におけるキーワードを「国際」と「ボランティア」と位置づけ、高校生が日々の地域でのボランティア活動などを点検しながら自ら企画、運営を行う国際ボランティアワークキャンプ（以下、「ボラキャン」と記述）を２泊３日で実施しました。このボラキャンは、日本や世界が直面している「紛争」や「環境問題」、「人権抑圧」、「食品ロス」など様々な課題について関心を持つ高校生たちが毎年春ごろから学校の垣根を越えて集まり実行委員（executive committee：以下、「EC」と記述）を組織し、夏休みに行う本大会に向けて企画・運営を行い、一般で参加する同世代の高校生たちと自分たちで出来る課題解決の取り組みを作り上げるもので平成18年から開催しています。第17回目となる本年度のボラキャンは、行動制限がないことや、感染対策をしっかりと行うことで高校生97名、留学生３名、大学生サポーターなど総勢126名が参加し３年ぶりの開催となりました。

今回のテーマは、「share～シェア：知る（シ）+得る（エ）=アクション（ア）」と題し、人類が直面している様々な課題を「知り得て」、「アクション」に繋げていこうという意味が込められています。同世代の他の高校生や大学生、留学生、また、諸問題に取り組む大人たちとの交流を深める場として、とても有意義なものでした。



## 概要

**●開催日程**
2022年８月12日(金)、13日(土)、14日(日)　２泊３日

**●開催場所**
国立阿蘇青少年交流の家
（阿蘇市一の宮町宮地6029-1）

**●参加者**
100名（一般高校生80名、EC高校生17名、留学生３名）

**●主催**
国際ボランティアワークキャンプ実行委員会
※ECの紹介は裏面に記載

**●構成団体**
熊本ユネスコ協会、熊本留学生交流推進会議、
税理士法人近代経営研究所、株式会社日本リモナイト、
一般社団法人ドリーム・ラボ、
一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

**●協力団体**
独立行政法人国際協力機構（JICA）九州センター
日本ボランティア学習協会

**●後援**
熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本日日新聞社

**●事務局**
一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

## スペシャルサンクス（敬称略）

●未来職道協力団体
・JICAデスク熊本（尾上　香織、木下　俊和）
・NPO法人外国から来た子ども支援ネットくまもと（竹村　朋子）
・日本語教師（大住　葉子）
・EPO九州（澤　克彦、勝家　伸男）
・NPO法人YWCA・からふるスペース（曽方　晴希）
・特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン熊本グループ（岩坂　省吾）
・一般社団法人日本ワーキングホリデー協会（藤田　逸郎、水上　卓也、中田　由佳）
・ボランティア学習協会（興梠　寛）
・TEDx Kumamoto（松岡　祥仁、坂東　喜子）
・特定非営利活動法人 KEYS（藤原　睦己、錦織　景将、鶴亀　蒼）
・グローバル・コミュニケーション・アクト（八木　浩光）
・SMILE Station、ボラキャンEC（KIF、EC）

●分科会アドバイザー

| | |
|---|---|
| 第1分科会「多文化共生」 | 大住　葉子、竹村　朋子 |
| 第2分科会「国際協力」 | 尾上　香織、木下　俊和 |
| 第3分科会「地球温暖化と海」 | 澤　克彦、勝家　伸男 |
| 第4分科会「多様性」 | 大和　賢佑、八木　浩光 |
| 第5分科会「食品ロス」 | 田代　智也 |
| 第6分科会「子どもの権利」 | 岩坂　省吾 |

●講師
興梠　寛（日本ボランティア学習協会代表）
西尾　雄志（近畿大学総合社会学准教授）

●サポーター（ボラキャンOB、OG）
前川　福美、平山　恩愛、ハーリントン　アレクサンダー、
東山　奈穂、工藤すみれ、工藤　優奈、野口　花音、山川　恩

●事務局
勝谷　知美、徳淵　健一、田上　美奈、マグダレナ ムジゴト



## Schedule

### 8月12日（金）１日目

| | | |
|---|---|---|
| 9：30 | 集合（一般参加者） | |
| 10：00 | 出発（熊本市国際交流会館から貸切バス） | |
| 11：30 | 到着（国立阿蘇青少年交流の家） | |
| 12：00 | 入所オリエンテーション、昼食 | @大研修室 |
| 13：30 | 開会式 | @講堂 |
| | 基調講演（興梠　寛氏） | |
| 15：00 | 分科会活動① | |
| | 第１分科会「多文化共生」 | @中研修室 |
| | 第２分科会「国際協力」 | @第７研修室 |
| | 第３分科会「地球温暖化と海」 | @第８研修室 |
| | 第４分科会「多様性」 | @第４研修室 |
| | 第５分科会「食品ロス」 | @第３研修室 |
| | 第６分科会「子どもの権利」 | @第５研修室 |
| 17：00 | （夕食） | |
| 19：00 | 全体交流会「人探しゲーム」 | @講堂 |
| | 「ナイトハイク」 | @野外 |
| 21：00 | 入浴 | |
| 22：00 | 就寝 | |

### 8月13日（土）２日目

| | |
|---|---|
| 6：30 | 起床 |
| 6：50 | クリーンタイム（清掃） |
| 7：10 | （朝食） |
| 9：00 | 分科会ワークショップ② |
| 12：00 | （昼食） |
| 13：00 | 分科会ワークショップ③ |
| 17：30 | （夕食） |
| 19：00 | 未来職道 （2F大研修室） |
| 21：00 | 入浴 |
| 22：00 | 就寝 |

### 8月14日（日）３日目

| | |
|---|---|
| 6：30 | 起床 |
| 6：50 | クリーンタイム（清掃） |
| 7：30 | （朝食） |
| 9：00 | 分科会 発表会（2F大研修室） |
| 11：00 | クロージングミニ講演（西尾　雄志氏） |
| 11：45 | 閉会 |
| 12：00 | （昼食） |
| 13：00 | 退所 |
| 13：30 | 阿蘇神社観光 |
| 14：30 | 帰路 |
| 16：00 | 熊本市国際交流会館到着、解散 |

# 「開会式・基調講演」

## 基調講演

興梠　　寛氏（日本ボランティア学習協会代表、アクティブ・シチズンシップ研究所代表）

報告者　藤川　洸乃（九州学院高校２年）

第17回国際ボランティアワークキャンプ in ASO（ボラキャン）は、実行副委員長の石川明曄さんの開会宣言で始まりました。新型コロナの影響で阿蘇での開催は３年ぶり、徹底した感染防止下での活動となり、例年とは少し異なった形での開催となりましたが、県内外から100人を超える高校生と留学生が集まったことに心より感謝します。開会式が始まる前や開会式の最中はまだお互いに慣れていない様子で、参加者たちは緊張した様子でした。開会宣言の後に放映されたオープニングムービーでは、これまでのボラキャンの活動の歴史が流れました。

ボラキャンの歴史に興味を持ちながら、参加者たちが真剣に動画を見ており、これから始まる３日間を楽しみにしているように見えました。そして、実行委員長の山川景さんの挨拶では、「いろいろな学校の人たちが集まってアイディアを共有し、仲良くなることがこのキャンプのいいところだと思います！」という言葉を聞いて、これからの３日間の生活で何があるのか、どんな人と仲良くなれるのかと胸を踊らせたことだと思います。その後のECの自己紹介では、それぞれがこの３日間の意気込みを述べました。ECたちはそれぞれ、「みなさんと楽しく過ごしたい」、「議論を交わし、しっかり意見交換をしていきたい」などの思いを持っていました。開会式が終わり、日本ボランティア学習協会代表の興梠寛先生に基調講演をいただきました。「つながる、つなぐ、わかちあう」のテーマをもとにお話をしていただき、今回のボラキャンのテーマである“シェア　知る＋得る＝アクション”へつながるものがありました。新型コロナや、ウクライナ侵略と暗い社会背景に、ニュースや新聞を見ることが怖いと感じる高校生がいること、家族以外との交流が少なく孤立感を深める日本人の現状などから、改めて、人と人とがつながり、ともにわかちあうボランタリーライフを進めていくことが大切であることを学びました。多くの新しい発見があり、ECも参加者も興味や関心を持って聞くことができたと思います。また、「ボランティアをする側ではなくされる側が大事」という言葉にはボランティアに参加している身として驚いた人が多かったかなと思いました。ECや参加者にとって、これからボラキャンが始まって行くんだ！という思いを持てたそんな始まりの一歩となった開会式、これから私たち高校生が行っていくボランティア活動への活力となった基調講演でした。

## 第１分科会「多文化共生」　参加者13名

報告者　宮崎　恵理（八代高校２年）
ECメンバー：山川　　景、松尾　彩加
アドバイザー：大住　葉子、竹村　朋子

第１分科会では「多文化共生」について活動を行いました。普段の生活の中で、周囲の外国人が抱えている悩みなどを知り、多文化共生の実現に向けて私たちができることについて話し合いました。１日目は、他人に自分のことを紹介してもらう「他己紹介」を行い参加者同士のことを知った後、みんなで「バーンガ」をしました。

バーンガは、簡単にいうと日本へ移住した方が、日本語やこの国のルールが分からないため「疎外感」を感じる疑似体験をしていただくため、グループで少しずつルールが異なります。勝った人は別のグループに移動しますが、そのグループでのルールが分からないため「疎外感」を感じます。ルールは実際の社会では「法律」、カードの出し方は「伝統」や「習慣」を表しています。最初はグループごとのルールの違いに戸惑っていましたが、次第にジェスチャーを使ってコミュニケーションを取る姿が見られました。

２日目の午前中は、多文化共生について考えました。多文化共生のイメージを班で話し合った後、その定義について学び、その中で大切なところやその理由についても話し合いました。次に外国にルーツを持つECと大学生の体験談を聞きました。日本語ができなかったことや、文化の違いで苦労したことを聞きました。日本と外国の学校の違いや、外国にルーツを持つ学生と接するときに心がけることなどたくさんの質問が出ました。そして、熊本県に住む外国人についてECがプレゼンテーションを行い、クイズを出しました。国籍や在留外国人数などといったものから、在留資格や、コンビニで働く外国人の割合など身近に感じてもらえるような工夫をしました。それら在留外国人の問題などの説明を行ったところ、技能実習生という言葉を初めて聞いた参加者が多く、ECから参加者にイメージについて問いかけたり、補足で説明をしたりしました。午後からは「やさしい日本語」について学び、「優しい」と「易しい」の２つの意味を持ち、思いやりを大切にする「やさしい日本語」について初めて知ったという参加者がほとんどでした。「やさしい日本語」は誰を対象としているか、生まれた背景などを学んだ後、「やさしい日本語」の基本的なルールについての説明があり、漢字に読み方（ルビ）をつける、「です」、「ます」といった文末にする、熟語や方言は使わない、地震や避難所など知っておく必要がある言葉はそのまま表記して補足説明をするなどを学びました。その後、立入禁止や集合場所といった言葉を「やさしい日本語」に変換するという活動をしました。地震が起きたときのニュースにも挑戦しました。物事の本質を捉えることと、状況ごとに表現を変えることの大切さが分かりました。最後に多文化共生を実現するための行動宣言を考えて２日間の報告書を作りました。行動宣言の中には、相手との間に壁を作らない、思いやりを大切にするというものがあり、私たちECが伝えたかったことが伝わっていて嬉しかったです。参加者の皆さん、またECや分科会活動に関わってくださった皆さんに感謝しています。本当にありがとうございました。

## 第２分科会「国際協力」　参加者14名

報告者　溜渕　朝陽（マリスト学園高校）
ECメンバー：市原　天斗、大西　杏弥、清田　和澄、三村　藍花
アドバイザー：尾上　香織（JICAデスク熊本）、木下　俊和（JICA海外協力隊OB）

国際協力の分科会では貧困、格差、紛争を主な話題とし世界や日本で行われている国際協力を知り、自分も世界の一員であることを再確認し、私達にできる国際協力について考えるということを目標に活動を行いました。

１日目は、まず自己紹介をしてもらったあとに「他己紹介」をしてもらいました。次に、世界の課題とみんながハッピーになれる世界についてワールドカフェをしました。他己紹介の時間を多く取ったことにより互いのことがよく知れ、話し合いの時に自分達ECが予想していたのよりもはるかに多くの意見が出てきていて参加者の方たちの思いがとても良く伝わってきました。しかし、他己紹介で時間をとりすぎてしまったため１回減らして最後にはそれぞれのグループに戻って他のグループで聞いてきた話を自分のグループ内で話すことができたので、良い対応ができたと思いました。

２日目の午前は、まずECのプレゼンを行いました。プレゼンは国際協力、貧困、格差、紛争の順で行い、私は紛争を担当しましたが、今までに練習してきたプレゼンの中で一番良いプレゼンができました。また、自分の伝えたいことが明確になるように工夫することができました。その後、アドバイザーの木下氏と尾上氏に講話をしていただき、プレゼンと講話を聞いたことを元に、前日に描いたワールドカフェの模造紙に付け加えをしてもらい、午後にまとめやすいようにキーワードをポストイットに書いてもらいました。

午後からは、ポストイットに書かれたキーワードを整理する作業を行い、それぞれの班ごとに出た意見を発表してもらい、全体の意見交換をしました。その後、各班から集めたポストイットを一つの大きな模造紙に貼って整理し、次に各班で話し合ってもらい、どのようにグルーピングしたらよいかを話し合いました。

すると、それぞれの班からさまざまな想像力豊かな意見が出ました。このように興味深い意見がたくさん出るとは思っていなかったので正直戸惑いました。全体報告会に向けてまとめていく際に意見が多すぎたため、班と班で大きく意見が対立してしまいました。議論をしていくと皆の意見は反映されますが、まとめるのに時間がかかるものでした。その後、ECや参加者の方々から多数決にしてはどうかという意見をいただき、最終的には一つにまとめることが出来ました。ここで感じたこととしては、たくさんの人の意見を聞くことはとても重要なことですが時間は限られているので、ある程度のめどをつけて次にすすんでいく必要があるということでした。次に報告書のポスターに書く内容を各班で分担して終わった班からポスター作りを手伝うという形をとり効率よくポスターを仕上げられることが出来ました。

全体報告会では、自分達が分科会で何をしていったかということについてしっかりして報告ができ、質問にもしっかり対応ができたようでした。最後に、この分科会を終えて国際協力について学んだことは、世界にはまだまだ大きな課題がたくさんあり、それに対してどのように対応していくのが最も良い方法なのかというのをしっかり考えていくことが重要なのだと学びました。ECとして活動し、学んだことについては予定通りにどうにかしようと考えるのではなく、その時その時でどのようなことに、どれだけの時間を使うことができるのかを頭を柔軟にして考え、臨機応変に対応していくことが大切だということを学びました。私達の分科会に参加してくださった参加者の皆さん、そして支えてくださった全ての方々に心からの感謝を申し上げます。

## 第３分科会「地球温暖化と海」　参加者12名

報告者：中原　布美子（必由館高校２年）
アドバイザー：澤　克彦、勝家　伸男（EPO九州）

第３分科会「地球温暖化と海」では、人間が引き起こしてきた気候変動を自分ごととして捉えてほしいという思いで活動しました。

１日目は自己紹介をした後にアイスブレイクとして、ワードウルフをしました。ルール説明では知らない人のために、分かりやすいスライド作りを心がけたので、参加者同士楽しんでくれたので良かったです。

２日目は、３グループに分けて分科会を行いました。一度は地球温暖化のことを耳にしたことはあると思うけど、「世界ではどのような取り組みをしているのか」、「なぜ二酸化炭素を排出してはいけないのか」等、意外と知らないこともあったと思います。そこで改めて理解を深めてもらうため、はじめに地球温暖化に関するクイズを出しました。次にグループワークとして、身の回りにある温暖化・気候変動について話し合ってもらい、ホワイトボードにまとめました。その後、大洋州に浮かぶ島国キリバスについて日本キリバス協会のケンタロ・オノさんにオンラインで講演をしていただきました。島国であるキリバスは、海面上昇の影響を受け水没する可能性がある危機的な状態にあり、その状況を知ることで早く解決すべき問題なんだという意識を持つことができました。質問にも答えていただき、「ゴミは水をよく切ってから捨てる」、「飛行機はできるだけ使わない」等、高校生ができる取り組みについてもアドバイスをいただきました。

午後からは、SDGsの視点で考えてもらうためにカードゲームをしました。トレードオフカードをそれぞれに配り、多角的な視点から解決方法を考えてもらうことができました。次にグループワークを行い、温暖化による影響を防ぐためにできることを考え、たくさんの意見を出してもらいました。最後に、今まで学んだことを周りに広めるため、「世界中に発信するとしたら」というテーマで、ハッシュタグを考えてもらいました。この分科会はECが私１人だけだったということで、たくさんの方々に応援の言葉をいただきました。お陰様で素敵な分科会を作り上げることができました！本当にありがとうございました。

## 第４分科会「多様性」 参加者15名

報告者　安谷　士龍（マリスト学園高校２年）
ECメンバー：石川　明嘩、藤川　洸乃
アドバイザー：大和　賢佑、八木　浩光

皆さん『多様性』という言葉を聞いて何を思い浮かべますか？様々な事から多様性を感じることができると思います。たくさんのトピックがある中で私たちは次のような理由で３つのトピックを選びました。自分の性別に疑問を持ち悩んだ経験があり、調べる中LGBTQ＋でたくさんの人が傷ついており、みんなに理解してほしいことから『LGBTQ＋』。評定などの学歴重視で行われる面接をもっと人の内面性を見たり、勉強は何のためにするのかを考えたいことから『学歴問題』。高齢者と若者の交流が減少している中、高齢者の犯罪が年々増加していると聞き疑問に思ったため『高齢者問題』について扱うことにしました。まず一日目にアイスブレイクとして『他己紹介ゲーム』を行いました。このゲームでみんなの緊張がほぐれ仲が深まったように思いました。次にそれぞれのトピックについて簡単に導入を行い、どういう問題が発生しているのか？という現状を学んでその感想を参加者に尋ねました。そこでは「自分が知らない情報を知ることができとてもよかった。」などという感想を発表してくれました。

二日目は本格的にワークを進めていきました。それぞれECは参加者に伝えたいことを考えながらワークを行いました。LGBTQ＋ではLGBTQ＋で悩む人たちを特別扱いするのではなく、一人の人間として大切に接することや多くの人がLGBTQ＋についての理解・知識が少ないことから小さい頃からLGBTQ＋を学ぶという結論が出ました。学歴問題では、日本の学歴社会から学び自分たちの将来をどのように設計していくのかという問いに対して、勉強だけでなく学歴以外に自分の強みを作り上げ、社会で活かせるようにすることが大切だと結論づけました。高齢者問題では日本の高齢者の犯罪が年々増加しているという事実を受けいかに犯罪を少なくするかについて議論を行いました。その結果、高齢者は一人暮らしの方が多いため若者が積極的に高齢者と関わるボランティアに参加するという結論が出ました。これらのワークを通して多様性とは何か？について考えました。分科会では『お互いの価値観を大切にし、自分の固定観念を払拭し相手を認めること』とまとめました。そして多様性にまつわる課題を解決するには『人とのつながり』が切っても切り離せない存在であることを認識できました。なので相手のことをよく知り、お互いに必要としあえる信頼関係を築き上げる事が重要であることが見えてきました。人はどうしても先入観や偏見で物事を見がちです。なので自分の中の固定観念を無くす、言わば『偏見の眼鏡』を取り外すことが大切なのではないのでしょうか。

三日目の全体報告会では、みんなで考えたことをわかりやすく他の分科会参加者に伝えることができたと思います。最後に、この分科会の活動を通して多様性が重視される社会でどのように考え生きていくかをみんなで考えることができました。皆さんも『多様性』について一度考えてみてはどうでしょうか？

## 第５分科会「食品ロス」 参加者13名

報告者　福本 咲空（第一高校２年）
ECメンバー：鍬田　悠和、中武　美結
アドバイザー：田代　智也

私たち第５分科会「食品ロス」は、一人ひとりが「自分の身近なところから食品ロスを減らす意識を持つ」ということを目標に活動を行いました。まず一日目は、自己紹介をした後に、参加者とECの緊張をほぐして親睦を深めながら、食品ロスの発生要因を知るために「食べ残しNOゲーム」と「食品ロスクイズ」を行いました。

二日目は、はじめにワーク「食品ロスと聞いて感じるイメージは？」を行い、まず個人でマインドマップを書いてから、班で付箋を使ってグループ分けをし、目に見える形で意見をまとめました。ここでは、「地球温暖化」や「SDGs」などの言葉が多く出たことから、全体的に環境問題をイメージすることが分かりました。次に「どうして食品ロスを無くさないといけないんだろう？」というテーマから、ワールドカフェという方法でワークを行いました。難しいテーマだったので、最初はなかなか意見が出ませんでしたが、ECからのアドバイスや、他の人の意見を知ることにより、食品ロスについて深く考えるきっかけとなり、また、食品ロスが世界の貧困問題や環境問題にも繋がっていることも理解することができました。理解を深めた後は、家庭→日本→世界の順に視野を広げながら、さらに食品ロスを深く学びました。その一つとして世界の食品ロスを知るために、４枚の異なる国の１週間分の食べ物の写真を使って「フォトランゲージ」を行いました。そこでは、食品ロスの視点から見ると、経済的に豊かな国も貧しい国も買い過ぎや保存の仕方を誤ると、同じように食品ロスが発生するのではないかという意見が出ました。また、ある写真に写る家族の様子から、その家族の表情を読み取ると「食べ物が少なくても幸せを感じて暮らしているのではないか」という新たな視点が生まれました。次に発展途上国などで飢餓に苦しむ人々の話からは、改めて毎日不自由のない食事ができていることに対する感謝の気持ちを感じることができました。必要な人に本当に必要とするだけの食料が行き渡ることが、世界中に共通するようになって欲しいと願います。

三日間の学びを終えて、参加者からは「すぐに食品ロス解決にならなくてもできることを率先してやりたい」「家族に学んだことを話して意識してもらいたい」といった感想や、「阿蘇青少年の家の食堂で捨てられていた食べ物（残食）を見て、もったいないと感じた」などさっそく身近なところからの気付きがあり、参加者一人ひとりが食品ロスを減らすために自分にできることを見つけて、すぐに実行・行動したいというような意識の変化が見られるようになりました。

これから私たちは、ここでの学びを周りの家族、友人にも伝える機会を持ち、この活動を広げていきたいと考えています。私たちの分科会を支えてくださった全ての皆様、ありがとうございました。

## 第６分科会「子どもの権利」 参加者15名

報告者　菅原 己鈴（信愛女学院２年）
ECメンバー：中岡　愛花、安谷　真心
アドバイザー：特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン熊本グループ　岩坂　省吾

私たち第６分科会は、児童労働を中心に世界中の子ども達の置かれている状況を理解したうえで、参加者にアクションを起こしてほしいという目的で分科会を立ち上げました。１日目は、みんなとの交流や緊張ほぐしのためにアイスブレイクとして「質問ババ抜き」を行いました。このアイスブレイクで意見の出しやすい環境を作った後に、児童労働などについて学ぶ前に「自分の思う子どもらしさ」を文章や、漢字１文字など好きなように表し、それを２つのグループに分かれて意見の共有をし、それぞれの解答が他の人の刺激になっていました。その後、参加者が４歳、10歳、12歳の時に何をしていたかを聞き、児童人権活動家として活躍していたイクバル・マシー君の人生と比較してもらい、世界には児童労働で苦しむ子どもがいることを知り驚いているようでした。

２日目は、「児童労働カードゲーム」を行い、児童労働の現状を仮想体験してもらいました。そのアクティビティを通して「困った時こんな助けが欲しかった」、「どんな助けが嬉しかった」という意見を発表してもらいました。実在した児童労働の実態を、ゲームを通して自分の人生のようにたどることで自分のことのように考えられたと思います。その後、アドバイザーの岩坂氏より、児童労働の環境に置かれている同世代の子どもたちの現状について、より詳しくお話していただきました。昼食後、みんなとシャボン玉で遊んだ後に「子どもらしさが奪われた世界」を中心にウェビングをしました。はじめは、意見を書くことに躊躇していましたが、時間が経つにつれて自分から意見を出してくれるようになりました。生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利の４つの柱を軸とした子どもの権利条約を見ながらどのような権利が侵害されているかを話し合う際には、参加者を中心に「なぜそう思ったのか」という理由をつけて活発に話し合いができました。そして、２日目の最後に分科会を通して自分に出来ることを宣言してもらうために自分の好きな顔と自分の決意を書き記した「Happiness　Card」を作成し、今までの活動を振り返りこれから自分にできることを宣言してもらいました。

３日目の全体報告会の発表の前、参加者たちは緊張で動揺しているような場面も見られましたが、自身の言葉でイキイキ発表できていてとても嬉しかったです。この分科会では、世界には自分と同世代、もしくはそれより下の子どもが不当に働かされているという状況を知り、私たちにできることを考えてもらい、実際に起こせるアクションを起こしてほしいと思い立ち上げました。分科会が進んでいくと新しい知識や他の人の意見で新しい発見などが見つかり、新たな視点をみんな持つことができていたと思います。今こうして私たちが幸せに暮らしていることが普通ではなく、守られているという事を身に染みて感じてくれたのではないのかなと思います。宣言カードにも３日間学んだことから、自分に身近に出来ることを一生懸命考えてくれました。私たちが分科会を立ち上げた当初の想像していた以上に参加者の皆さんが出来ることをそれぞれ考えてくれて、分科会を立ち上げて少しでもアクションを起こそうと思った人が増えたのでとてもうれしく思いました。また、私たちECも思ってもいなかったような意見に触れることができとても貴重な経験になりました。

## 報告書　全体交流会

報告者：中武　美結（必由館高校２年）
清田　和澄（熊本学園大附属高校２年）

１日目の分科会活動が終わった後、分科会を超えてECを含め参加者全員の仲を深めるため、全体交流会を行いました。参加者たちは講堂入口にてナイトハイクで使うグループ分けのくじを引き、交流ゲームで使う「人探しゲーム」の用紙を持ち全体交流会が始まりました。最初は緊張してぎこちない様子でしたが、ゲームが進むにつれてみんな仲良くなり、交流会の雰囲気も良くなっていきました。人探しゲームのお題の中で「虹色の服を持っている人」、「インドに行ったことがある人」などは探すのが特に難しく、みんな苦戦しながらも多くの人と交流し最終的には全ての項目をクリアした人が多かったです。全ての項目をクリアした人には景品として韓国の薬菓と、ポーランドのチョコレートのどちらかをもらっていました。会場の雰囲気は盛り上がっていて、お菓子をもらえた人ももらえなかった人もみんな楽しんでいました。

人探しゲームが終わるとナイトハイクが始まりました。引いたくじに書いてある１～８の班にそれぞれ分かれ、自分たちのグループの順番が回ってくるまでは引き続きアイスブレイクで交流し、お互いの仲を深め合いました。ナイトハイクは、真っ暗の草原を歩いていくので怖がっていた人もいたけれど、会話が途切れたりすることなくみんなが楽しんでいました。終わった後は講堂に戻りマジカルバナナや007パンゲームという韓国のゲームをしました。007パンゲームはルールが難しかったので最初は戸惑ったり、恥ずかしがったりしている人も何人か見られましたが、続けていくうちにみんながルールを理解してだんだん盛り上がっていきました。みんな待ち時間を１秒たりとも無駄にせず常に楽しんでいる様子で良かったです。全体を通して参加者やECが仲良くなり、沢山の人と話すきっかけを作ることができて本当に良かったです。他の班を待つ時間が余っている時にみんなが仲良くなれるように工夫してゲームをしていて全体で盛り上がることができていたので、みんな楽しんで活動できていたと思います。

時にはEC同士で固まってしまって参加者と交流があまりできていないなどの反省点もありましたが、みんな良い雰囲気で終えることができてよかったです。全体交流会が思い出に残る活動としてみんなの心に残っていれば嬉しいです。

## 「未来職道　報告」 出展団体11

報告者　山川　　景（第一高校２年）

未来職道では、２日目の午後７時から９時まで２時間、いろいろな団体の話を聞くことができました。今回は、「JICA海外協力隊」、「NPO法人外国から来た子ども支援ネットくまもと」、「日本語教師」、「EPO九州」、「NPO法人YWCA・からふるペース」、「フリーザ・チルドレン・ジャパン熊本グループ」、「日本ワーキングホリデー協会」、「特定非営利活動法人KEYS」、「TED×Kumamoto」、「J-Act・E-Act」活動の11団体にお話をしていただきました。まず、団体の説明と未来職道の進め方を説明した後、それぞれ興味がある団体の話を聞きました。１団体15分程度で話を聞き、５団体を回ることができました。JICA海外協力隊、子ども支援ネットなどでは、分科会の中で触れた話も入っていて参加者がそれについてもっと深く知ることができました。

また、「TED×Kumamoto」や「日本ワーキングホリデー協会」では、将来に役に立つような話を聞くことができてとてもよかったです。参加者の中にはメモをとったり、未来職道が終わった後もブースで質問をしたりする人もいました。私は未来職道でいろんな話を聞き、新しいことについて挑戦したいと思うようになりました。自分が今まで知らなかった話、興味はなかったが聞いてみるととても面白かった話などがあって、実際にやってみたい、将来これに挑戦したいという気持ちが湧いてきました。参加者たちも未来職道で学んだことを将来につなげていけたらいいなと思います。今回、未来職道のために阿蘇に来ていただき、お話をしてくださった団体の皆様、本当にありがとうございました。

## 全体報告

報告者　石川　明嘩（必由館高校２年）

全体報告会では、２日目の分科会でまとめ上げ作った広用紙の報告書を使って、第１～第６分科会のブースを作り、各分科会で決めたA～Fグループでそれらのブースを回りました。質疑応答を含む10分間で、各分科会で学んだこと・伝えたいことを発表しました。ECだけでなく参加者たちにも発表していただいたので、少し緊張している様子でした。ECも参加者に対し、しっかりと学んだこと、伝えたいことを発表できるのか、２日目の分科会終わりから結構心配していました。また、質疑応答の時間が少し足りないところもありましたが、発表に関しては各分科会スムーズでとてもわかりやすかったです。私はDグループで、時間がある限り回った分科会全ての発表者に質疑応答の時間、「あなたはこの分科会を学ぶ前と後ではどう変わりましたか？何を学びましたか？」、と質問しました。例として、第１分科会「多文化共生」、第６分科会「子供の権利」の発表者の答えをご紹介します。「多文化共生」の発表者は「それぞれの文化の違いはある程度知っているつもりでいましたが、『バーンガ』というゲームを体験して、文化が違うとこんなにもコミュニケーションが取りづらいのかと実感しました。」と回答。「子どもの権利」の発表者は「初めは子どもの権利を耳にしたことがある程度でよく知らなかったが、『ウェビング』という活動を通して、自分以外の考えを知り、より子どもの権利について考えやすくなりました。そして、この分科会に参加してこれから募金活動や子どもに関するボランティアをしようと決めました。」など、それぞれのこれからどんな活動をしていきたいかまで答えがでてきました。各分科会で学んだこと、そして自分が参加した分科会以外の発表も聞くことができて、新たにたくさん学ぶことができた時間となりました。10分という短い間でまだ発表時間が足りない！という分科会もあったかもしれませんが、ほとんどが10分以内でできていました。各分科会で学んだことを今後の生活にも活かしてほしいです!!準備を手伝ってくださった、大学生の皆さん、事務局の皆さん、各分科会のアドバイザーの方々、本当にありがとうございました。

## クロージングミニ講演・閉会式報告書

講師：西尾　雄志氏（近畿大学総合社会学部准教授）

松尾　彩加（信愛女学院高校２年）

いよいよ閉会式が迫る中、近畿大学総合社会学部准教授の西尾雄志先生に本大会の総括をしていただきました。西尾先生は、この「ボラキャン」での経験をしっかりと今後に活かしてほしいという話をいただき、ECや参加者も、この「ボラキャン」を意味あるものにするために今後どう活かしていけばいいのか考えたのではないかと思います。その後、「ボラキャン」の周年記念映像と、「ボラキャン」のテーマ曲である「キセキの旅」の楽曲をBGMとしたメッセージをまとめた映像を見てもらいました。動画によって「ボラキャン」の歴史を感じ、この歴史ある「ボラキャン」に参加できたことを誇りに感じました。

次に、参加者から選出した代表者に「ボラキャン」に参加した感想を発表してもらいました。その後、EC委員長の山川景よりお礼のメッセージが述べられ、最後に、EC副委員長の石川明嘩からの閉会宣言で「第17回国際ボランティアワークキャンプ in ASO」は幕を閉じました。全員がこの３日間を振り返り、しっかりと今後に繋げていこうと考えることができたクロージングミニ講演と閉会式でした。今回のボラキャンに参加できたことを誇りにして、この経験を大切にしていけたらいいなと思いました。

## 「阿蘇観光」

報告者　鍬田　悠和（第二高校）

私たちは国立阿蘇青少年交流の家での２泊３日を終えたあと、阿蘇神社と門前町に観光に行きました。３日間の生活で参加者たちは私たちが予想していた以上に仲が深まっており、とても嬉しかったです。門前町ではそれぞれが好きな物を買って食べ、素敵な思い出を沢山作ることが出来ました。団子やきゅうり、アイス、ジュースなど様々な物が売ってある門前町は一般のお客さんも多かったですが、みんなマナーを守り買い物が出来ていたのでよかったと思いました。観光は参加者とECの両方の仲が一番深まっている時間だったので、今回のボラキャンの最高の締めくくりになったのではないかと思います。今回のボラキャンを開催できたことに感謝し、第18回のボラキャンを開催できることを心から願っています。

## 実行委員長からお礼のメッセージ

山川　　景（第一高校２年）

みなさんこんにちは。第17回国際ボランティアワークキャンプ実行委員長の山川景です。みなさん、阿蘇での３日間はどうでしたか？新しい友だちができたり、いろんな知識を得たりすることができましたか？阿蘇での開催は３年ぶりで、私も実際に参加したことがなかったのですが、今回の参加でたくさんのことを学んだのはもちろん、忘れられない大切な思い出をつくることができました。みなさんもいい思い出になってくれていると嬉しいです。このボラキャンはECたちが主体的にプログラムなどを考えてつくる活動であり、私はECとして参加しながらたくさんのことを学びました。準備する中では、会議の進め方、意見のまとめ方を学び、分科会に関する内容を勉強しながら新しい知識を増やすことができました。本番では、誘導の難しさ、みんなをまとめることの難しさなどを学ぶことができました。ボラキャンを準備し、本番に参加するまでの半年の間に自分が本当に成長することができたと実感しています。

私は今後、高校生の皆さんが一般参加でも、ECとしての参加でもボラキャンに関わってくれることを願っています。前に述べたとおり、たくさんのことを学べるし、自分で考える力を身につけることもできるし、大切な仲間ができます。もちろん自分の弱点を知ることもできます。何より、終わった後の達成感が大きく、自分自身の成長に繋がります。最後に、ボラキャンに参加をしてくださったみなさん、ボラキャンに関わり、支えてくださったアドバイザー、大学生サポーター、事務局のみなさん、本当にありがとうございました。そして第17回のボラキャンを一緒に創り上げてくれたECのみんなに本当に感謝です。ありがとう！

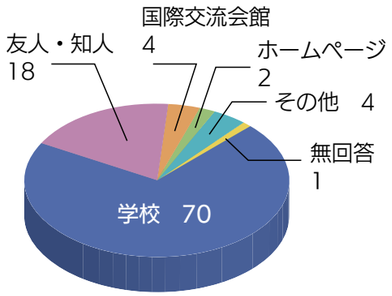
第17回
国際ボランティアワークキャンプ
in ASO

# アンケート集計

**回答数99**
（参加総数100人）

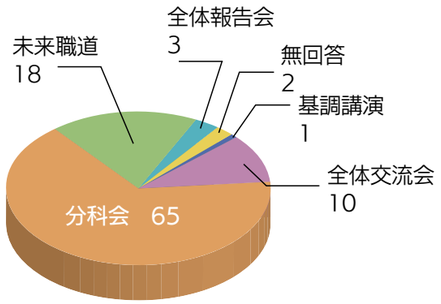
## ・ボラキャンをどこで知りましたか

| | |
|---|---|
| 1．学校 | 70 |
| 2．友人・知人 | 18 |
| 3．国際交流会館 | 4 |
| 4．ホームページ | 2 |
| 5．その他 | 4 |
| 6．無回答 | 1 |
| 集計 | 99 |



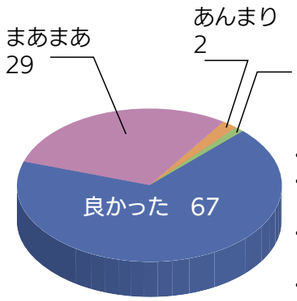

## ・一番印象に残った活動は何ですか

| | |
|---|---|
| 1．基調講演 | 1 |
| 2．全体交流会 | 10 |
| 3．分科会 | 65 |
| 4．未来職道 | 18 |
| 5．全体報告会 | 3 |
| 6．無回答 | 2 |
| 集計 | 99 |




## ・基調講演はどうでしたか

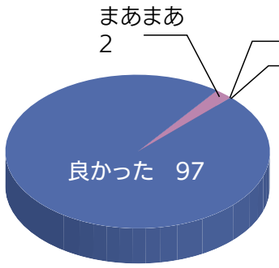
| | |
|---|---|
| 1．良かった | 67 |
| 2．まあまあ | 29 |
| 3．あんまり | 2 |
| 4．良くなかった | 1 |
| 集計 | 99 |




〈主な理由〉
- 様々な話が聞けた。
- 自分の将来の視野を広げることができた。
- ボランティアされる側の大切さがわかった。
- 日本と他国の意識の差に驚いた。

## ・実行委員の対応はどうでしたか

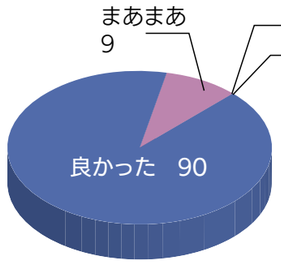
| | |
|---|---|
| 1．良かった | 97 |
| 2．まあまあ | 2 |
| 3．良くなかった | 0 |
| 6．無回答 | 0 |
| 集計 | 99 |




〈主な理由〉
- みんな優しくてとても話しやすかった
- 上手に誘導してくれてとてもよかった
- テキパキ動いてくれた
- 笑顔で話てくれて良かった

## ・全体交流会はどうでしたか

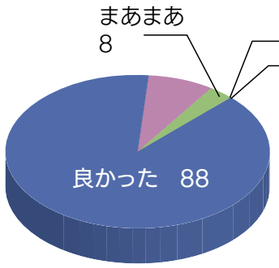
| | |
|---|---|
| 1．良かった | 90 |
| 2．まあまあ | 9 |
| 3．良くなかった | 0 |
| 6．無回答 | 0 |
| 集計 | 99 |




〈主な理由〉
- 他校の人たちと話せるいい機会だった。
- ナイトハイクでいろいろなゲームができた
- いろんな人と関わることができた
- 自分から積極的に話かけられなかった

## ・未来職道はどうでしたか

| | |
|---|---|
| 1．良かった | 88 |
| 2．まあまあ | 8 |
| 3．良くなかった | 0 |
| 4．無回答 | 3 |
| 集計 | 99 |




〈主な理由〉
- いっぱい話を聞けた
- 外国の人と話せた
- いろいろなすごい人の話を聞けた
- 興味のある話がたくさんありとても楽しかった

## ・分科会活動はどうでしたか

| | 良かった | まあまあ | 良くなかった |
|---|---|---|---|
| 第１分科会 | 16 | 0 | 0 |
| 第２分科会 | 16 | 0 | 0 |
| 第３分科会 | 12 | 1 | 0 |
| 第４分科会 | 17 | 1 | 0 |
| 第５分科会 | 16 | 0 | 0 |
| 第６分科会 | 17 | 1 | 0 |
| 無回答 | 2 | 0 | 0 |
| | 96 | 3 | 0 |

## ・来年のボラキャンで ECとして参加したいですか

14人

## 全体を通しての感想や意見などをお願いします

一日目の基調講演ではボランティアについて深く知ることができました。また全体交流会でもたくさんの人と楽しめました。二日目の分科会活動では参加者の人たちと一緒に社会問題について考えることができました。三日目の全体報告会では他の分科会の発表を聞いてたくさんの学びを得られました。とても実り多い三日間でした。

### 第１分科会
- 説明もクイズもわかりやすく、楽しかったです。
- みんな仲良くしてくれて、楽しく活動できました。
- 多文化共生について知識を深めることができました。

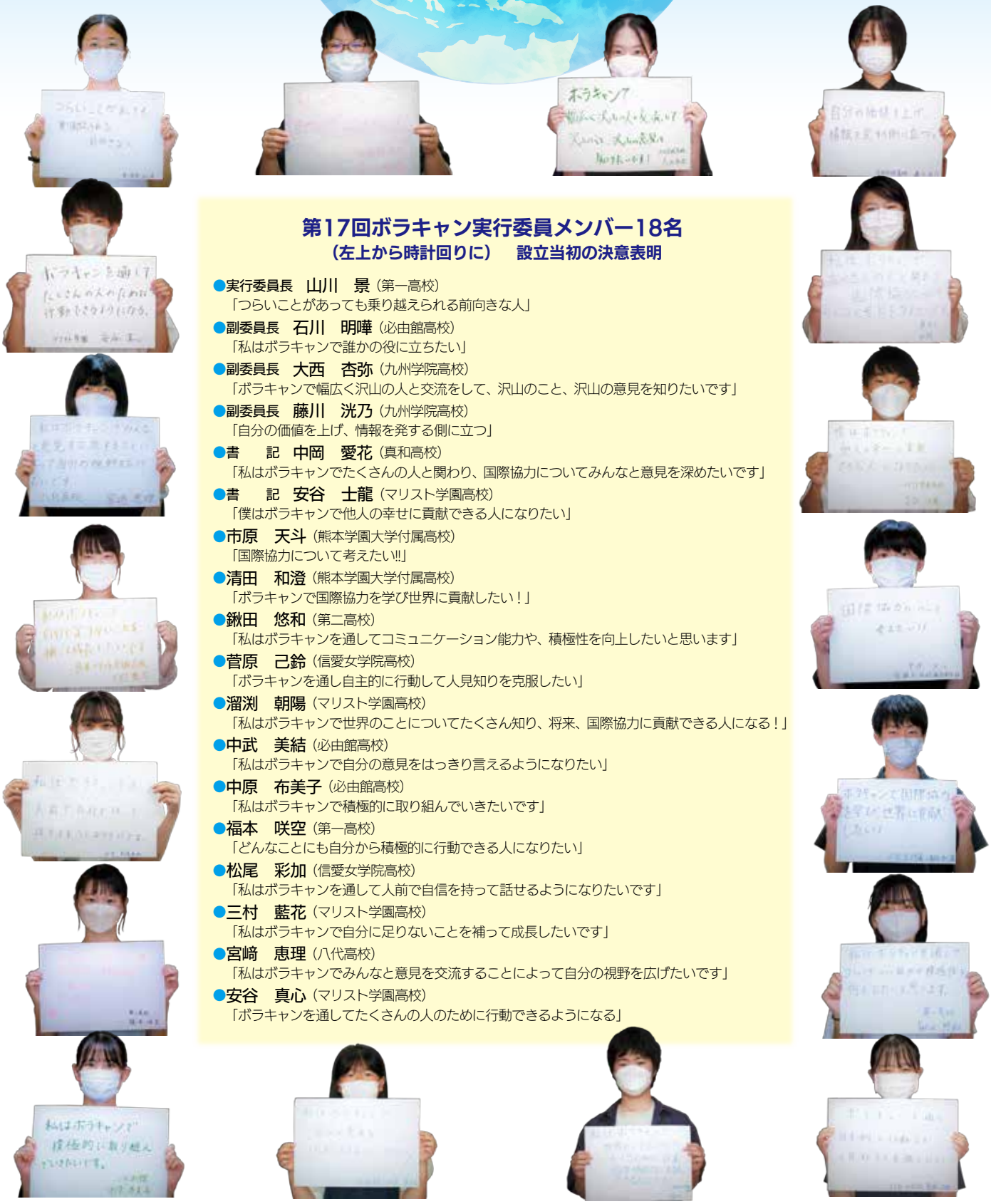
### 第２分科会
- 学校も年齢も違う人たちと意見交換ができとても楽しく、勉強になった。いろんな人と意見を交換出来て自分の考えが深まりました。
- 視野が広がりました。

### 第３分科会
- 地球温暖化について詳しく調べることができて良かった。
- いろんな人と交流ができて面白かった。
- 同じ分科会の人と仲良く活動できた。

### 第４分科会
- みんな優しいし、楽かったです。ここを選んでよかったです。
- 新しく知れたことが多かったしほかの人の意見も聞けてよかったです。
- 発表するのは嫌だなと思っていたけど実際してみたら楽しかったです。

### 第５分科会
- 食品ロスについての理解を深められた。
- ECの人たちが率先して取り組んでいたからよかった。
- 食品ロスについて楽しく学ぶことができた。

### 第６分科会
- 自分の知らないことばかり学べてよかった。
- 順序立てて考えていたのでわかりやすかったです。
- 知らないことが多く勉強になったし、友達になれたから。



## 第17回ボラキャン実行委員メンバー18名
### （左上から時計回りに）　設立当初の決意表明

●実行委員長　山川　景（第一高校）
「つらいことがあっても乗り越えられる前向きな人」

●副委員長　石川　明嘩（必由館高校）
「私はボラキャンで誰かの役に立ちたい」

●副委員長　大西　杏弥（九州学院高校）
「ボラキャンで幅広く沢山の人と交流をして、沢山のこと、沢山の意見を知りたいです」

●副委員長　藤川　洸乃（九州学院高校）
「自分の価値を上げ、情報を発する側に立つ」

●書　　記　中岡　愛花（真和高校）
「私はボラキャンでたくさんの人と関わり、国際協力についてみんなと意見を深めたいです」

●書　　記　安谷　士龍（マリスト学園高校）
「僕はボラキャンで他人の幸せに貢献できる人になりたい」

●市原　天斗（熊本学園大学付属高校）
「国際協力について考えたい!!」

●清田　和澄（熊本学園大学付属高校）
「ボラキャンで国際協力を学び世界に貢献したい！」

●鍬田　悠和（第二高校）
「私はボラキャンを通してコミュニケーション能力や、積極性を向上したいと思います」

●菅原　己鈴（信愛女学院高校）
「ボラキャンを通し自主的に行動して人見知りを克服したい」

●溜渕　朝陽（マリスト学園高校）
「私はボラキャンで世界のことについてたくさん知り、将来、国際協力に貢献できる人になる！」

●中武　美結（必由館高校）
「私はボラキャンで自分の意見をはっきり言えるようになりたい」

●中原　布美子（必由館高校）
「私はボラキャンで積極的に取り組んでいきたいです」

●福本　咲空（第一高校）
「どんなことにも自分から積極的に行動できる人になりたい」

●松尾　彩加（信愛女学院高校）
「私はボラキャンを通して人前で自信を持って話せるようになりたいです」

●三村　藍花（マリスト学園高校）
「私はボラキャンで自分に足りないことを補って成長したいです」

●宮﨑　恵理（八代高校）
「私はボラキャンでみんなと意見を交流することによって自分の視野を広げたいです」

●安谷　真心（マリスト学園高校）
「ボラキャンを通してたくさんの人のために行動できるようになる」

構成団体／税理士法人近代経営、株式会社日本リモナイト、一般社団法人ドリーム・ラボ、
熊本ユネスコ協会、熊本留学生交流推進会議、一般財団法人熊本市国際交流振興事業団
協力団体／独立行政法人国際協力機構九州センター
日本ボランティア学習協会
後援団体／熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本日日新聞社

令和４年度　子どもゆめ基金助成事業

【事 務 局】
一般財団法人熊本市国際交流振興事業団
（熊本市国際交流会館）
熊本市中央区花畑町４番18号
TEL：096-359-2121